

医療・福祉のエキスパート訪問



《第5回》

在宅訪問を行う言語聴覚士

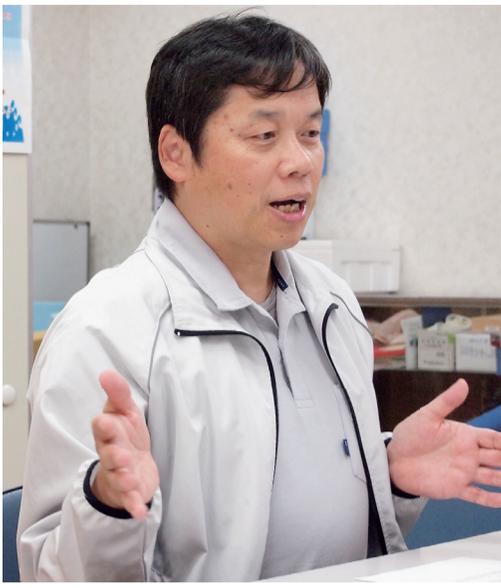
患者さんの「ものがたり」に寄り添って

【訪問先】竹内 満さん(言語聴覚士)
【取材】医療福祉部取材班

富山県砺波市に「ものがたり診療所」という変わった名前前の診療所があります。EBM (Evidence Based Medicine) 根拠に基づいた医療) は無論大事ですが、高齢者医療や終末期には NBM (Narrative Based Medicine) 物語に基づいた医療) が必要というコンセプトです。そこに併設されている「ものがたり訪問看護ステーション」に所属する、言語聴覚士(以下、ST)の竹内満さんが、今回のエキスパートです。竹内さんは金沢市内のクリニックに週一回訪問リハにきています。そのクリニックで取材しました。

在宅ではあえて手を出さないことも

竹内さんは「ものがたり診療所」で勤める前は、主に病院で仕事をしていた。病院のSTと在宅でのSTの違いを聞くと、「病院は直接手を出すが、在宅は直接の手出しを控える」とのこと。病院では多



言語聴覚士の竹内満さん

「ものがたり診療所」は、佐藤伸彦医師が開設した医院ですが、佐藤医師の著作(今は絶版となりましたが二〇一五年三月に内容を充実させ「ナラティブホームの物語…終末期医療をささえる地域包括ケアのしかけ」として再出版されました)を読み、講演を聞いて「働くならここだ」と思っ

たそうです。講演の後には著作へのサインをお願いし、ほどなく連絡を取って直談判したとのこと。竹内さんが進むべき道と、佐藤医師の目指す方向性とながったという話は、まさに「ものがたり」でした。STに訪問リハを依頼するのは、飲み込みが悪い、むせる、食べこぼしが多



竹内満さん(写真右)から説明を受ける医療福祉部取材班

キーワードは「筋緊張を緩め」「がんばらない」

STが介入することで、車いすからずり落ちそうにしていた人の、座位の姿勢が良くなり、自走も上手になった例(表情まで良くなり、奥さまが感涙した!)や、九十代の高齢のアルツ

入所・訪問看護が優先となってしまう、訪問リハの利用頻度はずっと下位です。リハビリテーション専門職には長く、病院偏重、技術信仰(?)志向があり、それは生活リハのものがたりの視点を欠いてきたことが原因、加えて、自立支援の視点から生活を見ない、いわゆる御用聞きケアマネジャーにも一因があるので、訪問介護・通所・短期のキーワードは「筋緊張を緩めること」と「がんばらないこと」にあるそうで、約九〇%の人に当てはまることとす。顔が歪んでいた終末期の方に、使わ

お口の機能を育てましょう

5万冊完売!

好評につき、第3刷を発行しました。

石川県保険医協会が2013年に発行した食育パンフレット「お口の機能を育てましょう」は、会員はもとより全国から多くの注文が寄せられ、5万冊が完売となりました。このたび、第3刷として1万冊を増刷しました。引き続きのご注文をお待ちしております。なお、増刷に伴い価格が変更になりましたこと、ご了承ください。

価格改定のお知らせ

新価格は以下の通りです。
 定価300円(税込)
 会員価格150円(税込)
 ※100冊以上ご注文いただく場合、特価(1冊税込100円)で販売します。
 ※送料は別途ご負担いただけます。
 ※10冊単位での販売となります。
 B5判/20頁/カラー

注文先:石川県保険医協会
 TEL: 076-222-5373 FAX: 076-231-5156 E-mail: ishikawa-hok@doc-net.or.jp